

ICAP レビュー2. タイトル「飲酒文化の社会的役割」：

サブタイトル；様々な飲酒形態、規制が必要な状況、関係者の責任と協力

要約:国がアルコール政策を選択するに際しては、社会は、国と個人の責任分担の適切なバランスを考慮に入れながら、どのような行動を奨励し、どのような行動を規制するかを決定する必要がある。このICAPレビューでは、世界各地での様々な異なる飲酒文化を紹介し、異なる地域社会、国、地方での異なるニーズに応じた、新鮮なアプローチを提案している。近く出版予定の「飲酒文化の社会的役割：様々な飲酒形態、規制が必要な状況、関係者の責任と協力、**Drinking in Context: Patterns, Interventions, and Partnerships**」は、この中で述べる三つの主要なテーマについて概略を述べている。つまり、様々な飲酒形態という概念が飲酒行動を説明し、社会における善悪両面の結果を予想するために最適であるとしている。また、規制が必要な状況として、焦点を絞った規制・介入が、飲酒の利点を最大化し、害を最小化する鍵になるとしている。更に、関係者の責任と協力は、高度な社会が必要とする洗練された飲酒文化を実現するためには、多くのステークホルダーによるパートナーシップが優れた機会を提供するとしている。飲酒文化を享受できる国におけるアルコール政策の目的は、適切、現実的、持続可能な飲酒文化の楽しみ方、パートナーシップを確立することである。そうした成熟したアルコール政策が、アルコールに関連した害を減らし、より節度ある飲酒行動を促進し、個人にとっても社会にとっても、アルコール消費から、最大限の利益を引き出すことを可能にするのである。